

前奏 黙想	祈 禱
讚美歌 539 あめつちこぞりて	讚美歌 63 いざやともよ いさみすすめ
祈 禱	献 金
信仰告白 使徒信条 566	讚 詠 547 いまささぐるそなえものを
聖 書 サムエル記上 24:4	黙 禱
コリントの信徒への手紙二 12:7b~9a	主の祈り 564
讚美歌 67 よろずのもの とわにしらす	頌 栄 544 あまつみたみも
説 教 長崎 哲夫 牧師	祝 禱
『主に油注がれた人』	後 奏

前回ペリシテについて語った。彼等は、創世記にカフトル人、エーゲ海のクレタ島から出た「海の民」と呼ばれて古くエジプトとも関わった。海賊なのか、暴力まがいの民族で I サム 17:50 の巨人ゴリアテのイメージで見られた。彼等は主として地中海沿岸ガテ・ガサ・アシュケロン・アシトド・エクロンの 5 都市でタゴン神を祭り、イスラエルには使用させない「鉄器」を自由に操った(同 3:19)。そういう中、イスラエルの民も他の国々同様王を求め(同 8:1)、国家体制強化を諮り、裁き人サムエルの時代終焉の時を迎える。王に権能を持たせるとは、戦時に入ること。①息子らの徴用、②戦車兵・騎兵として王の戦に参戦、③王の為農事・武器製造従事、④娘たちは香料・料理に徴用、⑤家臣の為最上の畑、葡萄やオリーブ畑の没収、⑥穀物と葡萄の徴収、⑦優秀な奴隷・女奴隷・若者の徴用をしつつ、王が陣頭に立って進み、その戦いを闘うとの主張(同 8:10)。

これを実現したのは、ベニヤミン族の勇敢な男キシユにサウルを名乗る息子がおり、この若者の美しさに及ぶ者はイスラエルに誰も居らず、彼は、民の誰よりも肩から上の分だけ背が高かった。サウルと先見者サムエルとの出会いは、彼が父キシユのロバを探しにツフ迄行った時、サムエルは主によって彼に油注げと命じられ、ギブアで神の霊が激しくサウルに注がれた(同 11:6)。彼は主が油注がれし王としてまずアンマン人を破った。サムエルは、「見よ、あなたたちが求め、選んだ王がここにいる。あなたたちが王を、恐れ主に仕え、御声に聞き従い、主のご命令に背かず、あなたたちの上に君臨する王もあなたたちの神、主に従う」(同 12:13)として「王権思想」の基本を伝えた。しかし、サウルは戦利品の値打ち無きものだけを滅ぼし尽し、至る所に自分のために「戦勝碑」を建てさせた(同 15:7-15)。

サムエルがベツレヘムのエッサイの末子ダビデに油注ぐのはそれから間もなき時。サムエルは主によってサウルの二の舞はしなかった。「容姿や背の高さに目を向けるな。わたしは彼を避ける。人間が見るようには見ない。人は目に映ることは見るが、主は心によって見る」はサウル王選別時の失敗から来た言葉。ダビデはゴリアテ殲滅以来サウルに仕えるが、「サウルは千を打ちダビデは万を打った」(同 18:7)と嘯し立てられ王の立場を失い、以来ダビデはサウルに追及さる身と化す。サウルの息ヨナタンの援護あり、死海の沿岸エン・ゲディの洞窟で用足しのサウル見逃したダビデの快挙(同 24:1)、更に再びギブアでは枕もとの槍と水差しを取って立ち去ったダビデの心意気(同 26:12)をサウルが認めざるを得なかったし、ダビデがサウルとヨナタンの死を「ああ、勇士は倒れた。戦いの器は失われた」と哀悼の歌「弓の歌」(IIサム 1:17)を歌ったのは彼の神の前の姿勢であったが、必ずしも間違いなき武人とは言えない。

サウルの娘ミカルを得るのにペリシテ人の陽皮百枚と交換(同 3:14)、アラム人 2 万 2 千、エドム人 1 万 8 千人を討ち殺しての名声(同 8:3)はウリヤの妻バテシバ事件まで至る(同 11)、ダビデにナタンの叱責(同 12)、バテシバとの一子の死去事件、サウル王一族シムイの罵声(同 16:5)等々。人間の完全は実は夢なのか。新約のイエスの十字架に深き意味あり、伝道者パウロの試練に満ちた生涯にもそれが付きまとう(IIコリ 11:23 以下)。詩編 119:71 に「困苦に会いたりしは我に良きことなり、此れによりて我汝の律法を学び得たり」がある。(長崎牧師、説教要旨)

本日礼拝後はトーンチャイムアンサンブルの練習。次主日 2/4 は役員会、「カレーの日」は休止。

礼拝堂・集会所の住所：408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ：408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メール komechan.olive@gmail.com HP は「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。